さいたま見沼

よみさんぽ

2025
Vol. 53

まち歩き 21
踏切を訪ねて3　岩槻区

まち歩き・21
踏切

踏切を訪ねて３　岩槻区

前回は見沼区の18号踏切から41号踏切まで歩きました．もとからあった24か所の踏切のうち残っていたのは12か所．立体交差になった所もありますが，約半分は廃止になっていました．

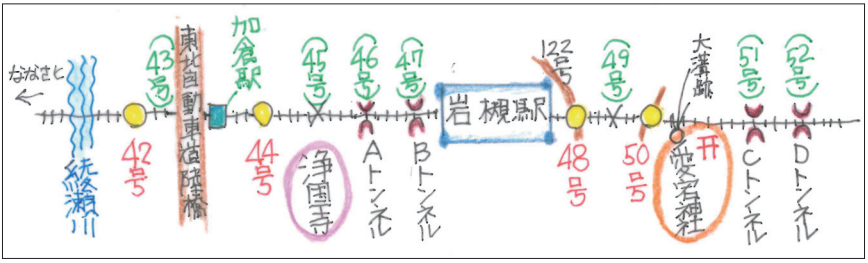
今回は綾瀬川を渡って岩槻区へ．42号踏切から東岩槻駅の先にある55-2号踏切までです．踏切番号の数字を数えてみると岩槻区は全部で15か所．見沼区は24か所でしたから，踏切の数はもともと少なかったようです．

42号～47号踏切

最初の42号踏切は幅員のわりに交通量の多い踏切でした．少し先に見えるのは東北自動車道の陸橋，欠番の43号踏切があったのはこの陸橋付近です．その先は44号踏切，1950年廃止になった「加倉駅」はこの近くにありました．

地図を見ると，この44号から岩槻駅の先にある48号まで踏切がありません．欠番の45・46・47号踏切はどこにあったのか気をつけながら，線路に寄りそうように歩いて行きました．すると制限高3.3メートルの「線路下トンネル（※）」．気がつけば線路は道路より高い盛土の上にありました（※正式な名称がわからないので「線路下トンネル」としました）．

さらに歩くと駅の近くにまた，線路下トンネル（以下，トンネル）．ここは制限高２メートルで車両通行禁止です．トンネルは，地面を掘り下げた地下通路とは違い，盛土にあけた穴をくぐる形なので，高さ制限はあっても車両の通行が可能なものも多くあります．最初にみつけたトンネルを（仮称）Ａトンネル，駅近くを（仮称）Ｂトンネルとし，以降は順にＣ，Ｄ……と仮称で呼ぶことにしました．



Ａトンネル

Ｂトンネル

Ｃトンネル

これらのトンネルは欠番の45～47号踏切だったのではないかとも考えられます．すると1972年の『広報いわつき』（No.197）に手がかりがありました．＜通称岡野良線（岩槻乳児院より西原台に通じる道路）に交差する四十六号踏切を，立体交差にするため廃止しました＞というお知らせが載っていたのです．地名や施設名から，この46号踏切がＡトンネルであることはまちがいありません．ならば駅のそばのＢトンネルは47号踏切となります．

もう一つの欠番45号踏切は，1975年の『住宅地図』にヒントが……．44号踏切とＡトンネルの間，浄国寺の北側に踏切があります．今は無いこの踏切が，たぶん廃止になった45号でしょう．これで48号踏切までつながりました．

48号踏切～旧武州鉄道跡

岩槻駅を過ぎると国道122号と交差するのが48号踏切．ここの警標は珍しい横縞模様です．49号踏切は欠番．次の50号踏切は愛宕（あたご）神社の裏手にあり，道路と斜めに交差していて幅員がとても広い踏切です．だから遮断桿（しゃだんかん）もとても長く，降りている時はまっすぐですが，上がると先が折れ曲がるような仕組みになっていました．1965年この踏切に警報機などが設置されたとき，両隣の49号と51号踏切が廃止されたそうです．

51号の痕跡を意識しながら歩いていると，また！トンネル（仮称Ｃトンネル）．さらに進むと岩槻小学校の北側に，またまた！トンネル（仮称Ｄトンネル）．次の踏切はずっと先の53号踏切なので，この二つのトンネルが欠番の51号と52号なのでしょう．それにしてもトンネルの多いこと……．

50号踏切

線路沿いを行くうちに盛土はどんどん高くな

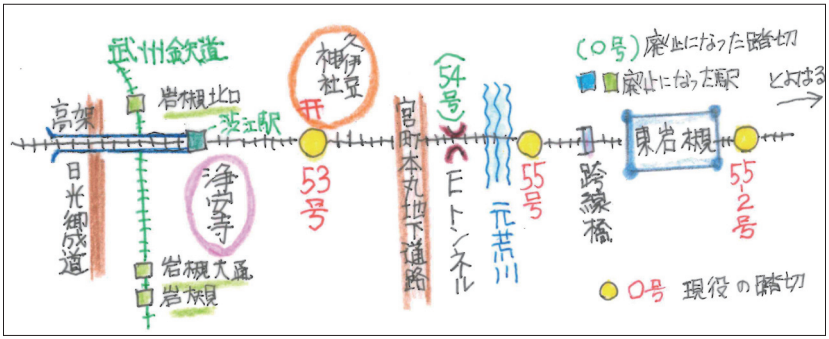
左から
D トンネル
E トンネル

って，ついに高架が出現．その下を大きな通りと２本の小さな道が通っています．高架の先も野田線はかなり高い盛土の上を走っていました．最初ここを通ったときは新しく造られた“ただの高架”と思って通り過ぎたのですが，後日調べてみたら歴史的に重要な場所だったことがわかりました．

ここは1929（昭和４）年に野田線が開通したときから高架でした．なぜならこの下には既に「武州鉄道」が通っていたからです．武州鉄道の開通は1924年（1937年廃業），後から開通した野田線は立体交差にすることで，武州鉄道の上に線路を敷設しました．高架下の大通りは「日光御成道」で，武州鉄道はその東側を並行するように走っていました．

武州鉄道の駅はこの近辺に，北から「岩槻北口」「岩槻本通」「岩槻」があったので，野田線の現「岩槻」駅は当時「岩槻町」駅という名まえでした．加倉駅とともに廃止になった「渋江駅」はこの立体交差の高い盛土の上にあったということです．

かつて武州鉄道が走っていたという細い道は今もありますが，それがわかるのは「武州鉄道の小径」という看板だけ．歴史的な背景を知って再度出かけてきたものの，武州鉄道と立体交差したという高架も，素人目にはやはり“ただの高架”にしか見えませんでした．



53号踏切

53号～55-2号踏切

高架から続く盛土に沿ってしばらく歩くと交差点があり，左に53号踏切と鳥居が見えました．鳥居は久伊豆（ひさいず）神社で，53号は神社の参道にある踏切なのです．久伊豆神社は主に綾瀬川と元荒川の間に分布する神社で，綾瀬川の西側は氷川神社，元荒川の東側は鹿沼神社，というはっきりした地域分布が見られるそうです．

53号踏切を過ぎても小高い盛土は続き，しばらくは踏切もトンネルもありません．次の踏切は元荒川の向こうにある55号ですから，欠番の54号踏切がこの辺りにあったはず．すると，大きなアンダーパス「宮町本丸地下道路」が……．“これだ”と思ったのですが，1975年の『住宅地図』を見ると踏切はおろか道もありません．どうやら新しくできた道路の新しい立体交差だったようです．

本丸という町名が示すように線路の南側にはかつて岩槻城があり，この辺も城を守るための濠（沼）だったようです．今は住宅地として整備されていますが，標高は他の地域よりやや低めです．そしてもうすぐ元荒川という所にまた！トンネル（仮称Ｅトンネル）．欠番の54号踏切はこれかもしれません．

川の向こう岸へは鉄橋近くにある人道橋で渡ります．この橋ができたのは1978年，それ以前は危険をおかして鉄橋の保線区員用通路を渡る住民が多く，禁止の立看板も柵も効果なしという状態に東武鉄道も苦慮していたとか．橋のおかげで危険を回避，回り道もせずにすむようになりました．

川を渡るとすぐに55号踏切．土手の上にポツンとある踏切は“絵になる風景”です．ここから東岩槻駅まで踏切はなく歩行者用の跨線橋が１か所あるだけ．東岩槻駅は1969年に開業した新駅――当時は北口に平屋の駅舎がある昔ながらの駅だったので，線路を渡るには踏切なり跨線橋なりが必要でした．踏切ではなく跨線橋＝立体交差だった点に新しい時代を感じます．

55号踏切

東岩槻駅を過ぎると55-2踏切．きっちりとした歩車分離の道路にあるので，踏切道も遮断桿もちゃんと歩車分離になっていました．56～

59号は欠番で（どこまで市内か不明），次の60号踏切はもう春日部市．55-2号がさいたま市最後の野田線踏切です．

岩槻区の特徴は「線路下トンネル」が多いこと―５か所―でした．大宮駅から見沼区まで，こういうトンネルは１か所だけです．欠番の踏切番号をトンネルに当てはめていくと番号がつながることや，踏切の数が野田線の開業当初から少ないことを考え合わせると，廃止した踏切に代わる立体交差だったと思われます．

また線路の多くが「盛土の上にある」ことも特徴の一つです．区全体の標高が低いためだろうか？　はたまた，昔岩槻城下の周囲に築かれた，防御のための大構え（土居）の上に線路を敷いたのか？　など考えたのですが，どちらもハズレでした．

標高は大宮から岩槻まで，芝川，綾瀬川，元荒川など川の近辺が低いだけで，台地の上は多少の凸凹はあるものの13～15メートル位と大差はありません．岩槻城の大構えも愛宕神社の裏にある50号踏切でかする程度でした．武州鉄道との立体交差の関係も考えられますが，これも確証はありません．岩槻区では“発見”と，“見当違い”ばかりの踏切巡りでしたが，これはこれでおもしろい体験になりました．

このたび野田線を巡って改めて気づいたのは車両の多彩さです．一つの路線に，こんなにいろいろな車両が，特別車両でも急行でもなく，普通に走っているなんて珍しいことではないしょうか．私の野田線に対する評価は１ランク上昇しました．

（記　並木せつ子）

ヤギ日誌

喜々と楽々と私と健康と

並んで散歩

あるヤギ当番の日，久しぶりに散歩に行こう思い，リードを付け外に連れ出しました．

ちょうど畑作業に向かうご近所の方に出会い，挨拶を交わしました．そこで「また太りましたね」と一言．一瞬自分のことかと思い，ギクリとしました．日頃から喜々と楽々を見守ってくれているのですね．ありがたいです．喜々と楽々はゲージ内で過ごすことも多く，運動不足な点も否めません．なので，時々散歩に連れ出すようにしています．

広場にて

喜々と楽々は結構なスピードで走るため，ついていくのが大変です．散歩は喜々と楽々と私の日頃の運動不足解消にはもってこいです．近所にある広場を何往復か一緒に走ると，身体も温まり効果てきめんです．

元気によく鳴き，よく食べる喜々と楽々を見ると，私も元気をもらえます．ぜひ喜々と楽々をイベントなどにもお呼びください．

（記　鈴木　裕貴）

水をゴクゴク飲む喜々

美味しそうに餌を食む楽々

埼玉郷土の食 番外編

あの人を思い出す食

これまで「埼玉の食」を連載する際に参考にしたのが『聞き書　埼玉の食事』（農山漁村文化協会，1992）という本でした．県下の各地域に根ざす食べものとその食べ方を大正期から昭和初期に調査したもので，発刊は1992年なので少々古さは否めません．しかし読み進めると，その食はやどかりの里で出会った何人かの人々の面影が重なりました．まず強く惹かれたのが川口鋳物工場の共同給食についての章です．

私は川口の荒川対岸に位置する板橋区に育ち，映画「キューポラのある街」の影響もあり川口は鋳物工場街，労働者の街という印象が強くありました．しかしその後，川口の鋳物工場といえば「蔵さん」につながります．「蔵さん」こと加藤蔵行さんは，やどかりの里のメンバー（障害のある当事者）でした．重い鋳鉄を扱う苛烈な労働が原因で変調をきたし，その後30年以上，精神科病院での入院生活をおくることになりました．その話を思い出したのです．辛いキューポラの作業で健康を害した当時の蔵さんや，映画に出てくる職工たちも共同給食を食べていたのかと興味を覚えます．

灼熱の労働環境下では食事は質より量，主食（白米）偏重の濃い味付けがよしとされていて，住み込みの小僧（職人見習い）や職工に脚気などの健康被害が急増していました．そこで国立栄養研究所長の佐伯博士が提唱した栄養を改善し健康増進をめざす事業に取り組みます．1934年，川口市鋳物工場栄養食共同配食所を設立し，77工場の従業員たち1,162人を対象に１日2,600食の給食が始まりました．専門の栄養士がつくる日替わりの給食により栄養状態は改善します．ネーミングが絶妙な「衛生煮」は豚細入りのすいとんでよく提供されました．栄養食の中から厚揚げのカレー煮と茹でジャガイモの鮭缶和えの人気の献立を再現します．

浦和，大宮の中山道沿いの商家の暮らし方の章では，「澄子さん」を思い出します．実家は大宮で割烹料理屋を営んで

いました. 彼女は大正５(1916)年生まれ, やどかりの里の創設者の１人です.「茶の間のおばさん」と呼ばれその茶の間ではゆっくりと過ごすことができました.

コロナ禍前のやどかりの里は毎年バザーを開催していました．寄せられた献品の中には賞味期限不明の食品があり, その代表格が「板海苔」や「干し椎茸」です．扱いに迷っていると，澄子さんの「もらうわよ」の一言．この大量の海苔と椎茸は「佃煮」となりご飯のお供になりました．また懇親会の鍋料理のために大量の出汁をとった後のことです．笊に上げた削り節の出がらしを澄子さんは自宅に引き取って帰りました．これが翌日「花鰹のふりかけ」になるのです．商家では食材は購入します．商売の残り物も粗末にせず工夫して家族や奉公人が食べるのは当たり前のことだったでしょう．出がらしではなく有効利用できるりっぱな食材だと教えられました.

埼玉県は栗の収穫量は高いものの,「栗ご飯」「渋皮煮」として食べるのは特別な時でした．やはり下処理が面倒なのでしょう．栗と言えば「守夫さん」と「たか枝さん」．長期入院を経てやどかりの里のメンバーとなった守夫さんは律儀な人で，秋になると必ず故郷の友部へ墓参りに行きました．土産はたくさんの栗です．その栗を待っていてとても喜び，手間のかかる渋皮煮にしてくれたのが料理だけでなく手芸も習字も得意の同僚のたか枝さん．私の母は渋皮煮を作らなかったので渋皮煮の存在を知るのは実はたか枝さんからでした．たか枝さんが灰汁で指先を黒くして作ってくれた渋皮煮，守夫さんや澄子さんも一緒に味わった茶の間の時間の流れがゆったりとしていたことは忘れられません.

（記　浅見　典子）

千切りキャベツのドレッシング和えを
添えたジャガイモと鮭缶の和え物

椎茸入海苔の佃煮と花鰹のふりかけは
澄子さん直伝

あの街 この街 俊一郎が行く second Vol.47

停滞

前回までのお話

狭い路地，密集する家屋……住民の暮らしが垣間見える路地での暮らし．大規模災害に備え，地域住民と行政が共同で建て替えを考える「まちづくり」事業に参加することになりました．

その一環として行った街区の建て替え提案ですが，地域住民の反応はいまいち．迎えた住民説明会も重苦しい雰囲気でスタートしました．

少人数からのスタート

紛糾したと言っても過言ではない状態でお開きとなった初回の説明会．辛うじて次の集まりを予定したものの，人数が集まらないのではという不安と，大人数集まったとしても，前回の繰り返しにならないかの不安が入り混じっていました．早めに会場入りして，机を並べ替えたりしていると４組くらいの人たちが集まってくれましたが，それっきり．ほっとした半面，今後を思うと気が重くなる状況でした．

ヒアリング

集まってくれたのは，地区の町会長や古くから地区に住む女性たちです．地区の歴史や地区内のアパートや空き家で所有者が知り合いの場合は，その方をご紹介いただくこともありました．一方で，地区内の自宅とその並びは，戦後に分譲住宅として売り出されたものだったこと，バブル期にマンション計画の話が幾度もあったものの，街区内にある借地部分の地主の承諾を得ることができずに頓挫したことなどを教えてもらいました．

こちらからは，行政からの支援を受けるためにも，賛否はともかく一定数以上の参加者が必要であることを伝え，次回の予定を決めて解散しました．

沈黙の地域

その後，定期的な集まりを開催しましたが参加者は増えず，状況を変えるべく地域を回りました．防災性の向上という大義のもと，行政の担当者も同行し

てくれましたが，なかなか厳しいものでした．一方で明るい話題もあり，連絡先が不明だった地主の連絡先が判明し話を聞いてもらえることになったのです．行政とともに行っている部分を評価してもらえたようでした．そうして，徐々に参加者を集めることができるようになってきました．（つづく）

とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975年生まれ，生まれも育ちも，東京の下町．
エンジュの新築の他，保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）を複数行う．（写真　新 良太）

未来を拓く
つなぐつくるプロジェクト・21

人と人がつながることで元気に
薬局が地域の居場所の１つに

辻鈴美さん
（クラフト株式会社
さくら薬局グループ）

「○○薬局」という看板やドラッグストアの中にある調剤薬局など，薬局は数も多く，お世話になる人も多いと思います．みなさんは，どのような基準で薬局を選ぶでしょう．病院の近くだから，自宅が近いからといった便利さで選ぶ人もいれば，お薬を届けてくれるので助かる，薬剤師さんの説明がわかりやすいといった「つながり」を大切にして選ぶ人もいるかもしれません．つなぐ・つくるプロジェクトのまちなか保健室[注)]のメンバーの１人，さくら薬局（大宮中川店）薬剤師の辻鈴美さんにお話を伺いました．

人と人がつながる薬局

辻さんは薬を届けるだけでなく「人と人とのつながり」や「薬局が地域の中で何となく立ち寄れる場所に」と考えています．家族の勧めもあって，薬剤師を目指した辻さんですが．大学卒業後は薬剤師ではなく，実験が好きだったということもあって，有機化学の実験助手を４年間勤めました．結婚を機に埼玉へ．新たな地で手にした「薬剤師募集」のチラシに，やってみようと応募し，子育てしながらの薬剤師人生が始まります．

今では薬剤師が自宅に薬を届けてくれることも増えていますが，まだそれほど多くなかった10年程前に，やどかりの里の精神障害のある人の自宅訪問をお願いしたところから，辻さんとやどかりの里とのお付き合いが始まります．

注）まちなか保健室とは，保健師・看護師，薬剤師，精神保健福祉士などの専門家が，地域のいろいろな場所で健康相談や生活相談に対応しながら，人と人とのつながりをつくっていく，つなぐ・つくるプロジェクトの取り組みの１つです．

やどかりの里のメンバー（精神障害のある人）からは毎朝「コンビニのチョコがおいしかった」「どうしてる？」……そんな電話が定期便のように来るようになったそうです．好きな芸能人や家族の話をしたり，薬を届けるだけでなく，さりげないおしゃべりからお互いに知り合っていくことに楽しさがあると，辻さんは言います．

右端が辻さん

最近では，がん末期の人の在宅ケアにも関わり，最期の時を自宅で送りたいと願う人に対応できるよう専用機械を導入して薬を届けています．待合室では「その服どこで買ったの？」と声をかけたり，子育て中にはいろいろなアドバイスをお客様からもらったり，薬局での世間話の中で「心と心が触れ合う」ことがとても嬉しいと，仕事のやりがいや思いを語ってくれました．

地域住民との交流

つなぐ・つくるプロジェクトの「まちなか保健室」では，薬局から血管年齢や身体の老化度を計測する機器を貸し出してもらい，地域住民の人との交流をはかっています．これも地域の薬局の取り組みの一つです．声がかかれば，自治会行事などにも参加．いろいろな人と知り合いになれることがとてもいいと感じているそうです．

趣味のケーキやパンづくりは，子育てしながら学校に通うほどの本格派．「薬局の一角で，カフェができたらな」「認知症の人や介護されているご家族がしゃべれるところがあるといい」「独居や孤独になりやすい人がおしゃべりだけでも来られる場所にできたら」と，これからの夢を語り出すと溢れるようにアイデアが出てきます．「薬局は敷居の高いところ．でもいつでも来られる場所にしたい」と熱い思いを語ってくれました．

「人と人のつながりで元気な地域をつくっていこう」というつなぐ・つくるプロジェクトの目指すところと，辻さんが薬剤師として取り組もうとしていることと，重なるところはたくさんあります．こんな薬局があったら行ってみようと思いませんか？　まちなか保健室に辻さんのケーキが登場する日もそう遠くはないかもしれません．　（大澤美紀）

さくら薬局　大宮中川店
埼玉県さいたま市見沼区中川749-1
TEL：048-687-6370　国際興業バス 西浦バス停すぐ　定休日　日・祭日

ビルメンテナンス・不動産管理
建物修繕工事請負・指定管理業務

今日も 明日も そっと。
毎日興業株式会社

〒330-0842
埼玉県さいたま市大宮区浅間町 2-244-1
TEL:0120-156-365
＜受付時間 8:30～17:30＞

スタッフ
募集中！

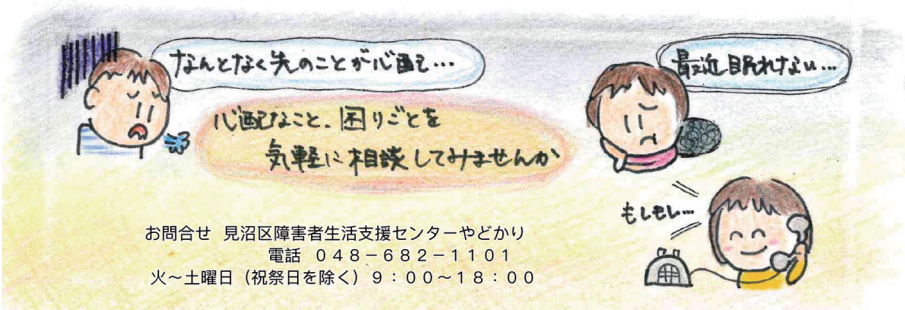
片柳地区社会福祉協議会

つながりを大切に活動しています

048（686）8601

開設時間

月曜日～金曜日
10時から16時



お問合せ　見沼区障害者生活支援センターやどかり
電話　０４８－６８２－１１０１
火～土曜日（祝祭日を除く）９：００～１８：００

不用になった パソコンの回収をしています

無料で

古くても
壊れていても
大丈夫です！

デスクトップ パソコン　ノートパソコン　携帯電話 タブレット　ゲーム機 ソフト

＊ AC 電源・キーボード・マウス・ケーブルも回収いたします。

ご自宅へ引き取りに伺います
まずはお問い合わせください

データについて
当事業所ではパソコンやハードディスクの記憶媒体に傷をつけて物理的に破壊します。希望される方には破壊証明書を発行いたします。

パソコン解体の取り組み
ご寄付いただいたパソコン等は、解体・分別により再利用・再資源化されます。障害のある人の仕事づくりになる取り組みです。

ご寄付お問い合わせ先
公益社団法人やどかりの里あゆみ舎

TEL　０４８－６４８－２５５５
mail　*ayumisya@yadokarinosato.org*

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

社会福祉法人 鴻沼福祉会（こうぬまふくしかい）

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください

とうふ屋 一豆（いちず）

TEL 048-854-8000
FAX 048-854-3538
さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりにこだわった本格とうふ。
宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。
大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910
FAX 048-854-6942
さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。（一部商品を除く）
職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。

弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。
野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをとおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048－854－6890（担当オガワ）

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL：048-854-6890 FAX：048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所（中央区） ●あざみ共同作業所（見沼区） ●そめや共同作業所（見沼区） ●きりしき共同作業所（中央区）
《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえでホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ
●なつめホーム（以上、中央区） ●のぞみホーム（見沼区） ●ひかりホーム（西区）
《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢（以上、中央区）
●見沼区障害者生活支援センター来人（見沼区）

さいたま見沼よみさんぽ

編集後記

表紙のオレンジ色の車両は，今も野田線を現役で走っている４世代の車両のうち一番古い型です．踏切を訪ね大宮駅から東岩槻駅まで線路沿いに歩いたおかげで，この車両の存在に気づくことができ，“まだ走っていた！”と嬉しくなりました．

踏切は1960年代から急速に減少し，野田線も例外ではありません．決して喜ばれる存在ではないけれど，踏切が周囲にとけこんだ美しい光景もありました．踏切に対してマイナスの印象しかなかった私が，いつのまにか“いとおしく”思えるようになっていたのは予想外の結末です．　（表紙写真・記　並木せつ子）

さいたま見沼よみさんぽ　第53号

発行　2025年４月

編集　「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会

〒337-0026　さいたま市見沼区染谷1177-4

Tel　048-680-1891　Fax　048-680-1894

E-mail　johokan@yadokarinosato.org

https://www.yadokarinosato.org/

発行　公益社団法人やどかりの里

理事長　増田一世

facebook

公益社団法人やどかりの里　　やどかり出版

公益社団法人やどかりの里は，この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を続けています．私たちは長年この地域で活動し，地域の皆さんに支えていただいてきました．

そして，この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化，守り育ててきた自然，地域に根づいた事業等々をもっと知りたいと思うようになりました．合わせて，やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました．またこの度，広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」と改題致しました．

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同

よみさんぽのあるやどかりの里の事業所

- やどかり情報館　見沼区染谷1177-4
- エンジュ　見沼区南中野286-1
- あゆみ舎　大宮区堀の内1-37　一武ビル１階
- 喫茶ルポーズ　大宮区天沼町1-136-2
- 見沼区障害者生活支援センターやどかり
  見沼区南中野467-1　スガヤハイツ105号
- 大宮区障害者生活支援センターやどかり
  大宮区東町1-141-6　第二吉田ビル１階
- 浦和区障害者生活支援センターやどかり
  浦和区北浦和5-6-7　レジデンス北浦和104
- エシカル Cafeとしょかんのとなり
  見沼区堀崎町48-1

よみさんぽバックナンバーはこちらから
ご覧いただけます

公益社団法人やどかりの里

https://www.yadokarinosato.org/kouhou/yomisanpo/